



## 乳児期の即時型食物アレルギーについて 子どもの食物アレルギー



近年、子どもの食物アレルギーは生活環境の変化とともに増加傾向を示しています。その中で最も多い時期は1歳ごろまでの乳児期であり、0歳児での発症率は5〜10%といわれています。類型は食べてから2時間以内で出現する即時型が多く、原因としては鶏卵、牛乳、小麦の3つが全体の9割を占めます。症状の多くはじんましんなどの皮膚・粘膜症状で、子どもの成長とともに改善することが知られており、鶏卵の場合は小学校卒業までに8割が治るといわれています。一方、まれにアナフィラキシーといって食後30分くらいに全身に強い症状が出ることもあり、その場合は速やかに医療機関を受診する必要があります。

食物アレルギーの原因食材を特定するには詳しい聞き取りが最も重要です。確実な診断は食物経口負荷試験しかありませんが、限られた施設でしか行われていないため、主

に重症の子どもが対象になります。一般的な血液アレルギー検査だけでは、確実な診断が難しいことに注意が必要です。検査が陽性の結果でも症状が全くない場合、食事から原因の食材を取り除くか、慎重に判断する必要があります。軽症の子どもは、かかりつけ医で適切な離乳食の進め方、皮膚のケア、通所施設との連携、専門医の紹介などの診察を受けることができます。

また、吹田市の保健センターでは予約制の「子どもアレルギー専門相談」が毎月未就学児を対象に行われており、希望者には利用をお勧めしています。